

3 興南寮跡碑の思い出

花岡 正雄

昭和三〇年の秋、学校から帰ると、見慣れないそれも明らかに日本人ではない多少浅黒い顔の男性が父と談笑していました。二人とも手を取り合って、懐かしそうに話していました。この男性は、南方特別留学生の一人で当時、日本国とフィリピン共和国との間の友好通商航海条約の際にフィリピン賠償使節団の一員として神戸フィリピン共和国総領事館に赴任して来たハリム・アブバカル氏でした（元在日大使館参事官、国際弁護士）。小学生の私は、何が何だかよく判らないまま紹介され二人の話を聞いていたのを思い出します。

戦後二〇年、日本は復興に向け国民一丸となって懸命に生きていた時代です。戦時中親しかった南方特別留学生もそれぞれ祖国に帰り、父も日々の仕事等に追われ、留学生の事が気にはなっているけど連絡を取ることもできず、全く音信不通だったそうです。故に、父は母にも私たち子供にも南方特別留学生のことについては一言も話しておらず、ハリム・アブバカル氏の訪問は母も大変驚いておりました。アブさん（父が付けたニックネームで我々は皆こう呼びます）は、興南寮から近くにある当家は戦前と同じ大手町四丁目に家を建てていた為すぐ分かったそうです。

この再会をきっかけに、父はアブさんの連絡網等を駆使しながら南方特別留学生の消息を尋ねました。最初にフィリピンのバージリオ・デ・ロス・サントス氏（広島高等師範学校、ハーバード大卒、元マニラ大学総長）から連絡

があり、一九六七年に来広されました。サントス氏は留学生だった時、花岡俊男には本当にお世話になったと感謝の言葉を述べられて、是非恩返しがしたいので息子の正雄をマニラ大学に招きたいと言われました。私は語学力に不安があった為、丁重にお断りをしたのですが、一九六九年に今度は副学長で奥様のコーデリア・デ・ロス・サントスさんと息子のアーネスト・デ・ロス・サントスさんが来広されて強く要望されました。奇しくもアーネスト・サントスさんは私と同年齢で、四日間の広島滞在中すっかり意気投合し、短期間の聴講生としてマニラに参る事を決心しました。

それから二八年後、私の息子も日本の大学二年生の時、交換留学生としてマニラ大へ二年間留学し、マニラからはアーネスト氏の息子のバール・デ・ロス・サントス君が日本の大学に留学致しました。親子三代に渡り、父の残した友情と国際交流は現在も続いております。南方特別留学生と連絡を取り合っていく内、留学生の皆さんが、「興南寮は今どうなった、どうなっている」と全員が問いかけてくるのだそうです。青春時代の最も多感な時を過ごした場所が全員気になっている……。

父は興南寮を風化させてはいけなく感じるようになり、興南寮から最も近い元安川の川土手に記念碑を建立する決心をしたのです。しかし、河川法等の法の縛りや近隣への理解、建設費等の諸問題が山積し、この計画はなかなか進みませんでした。建設省中国地方建設局の太田川工事事務所に土地の専用許可、建設を取り付ける為、父も私も日参したものです。

思案の結果、興南寮跡記念建設委員会を発足させ、各方面の協力を呼びかけ建設費を負担する等して、一九七六年五月新緑の木立に囲まれたコンクリート製の碑に、飯島 宗一 広島大学長に書いていただいた「興南寮跡」の銘板を取り付けました。大雨の中、当日の除幕式には、当時の留学生で比日協会事務局長のハリム・アブバカルさ

II 関係者からの寄稿

ん、在日インドネシア大使館の外交官アリフィン・ベイさん、荒木広島市長や広島大学に留学中の東南アジアの留学生ら三〇人が出席。父は、「戦時下の広島で苦学した留学生との触れ合いを永遠に生かし、友情と国際平和の象徴としたい」と挨拶をしました。

その後、河川改修等で場所は多少南に移動し、現在の記念碑は三代目です。三代目の除幕式の際にはハッサン・ラハヤ氏ご夫妻にご臨席いただきました。又、広島ブルネイ友好協会を設立し、ブルネイ側の会長にベンギラン・ユソフ氏をお迎えし、広島側の会長は花岡俊男が就任しました。ベンギラン・ユソフ氏のお孫さんが来広の際、記念碑にご案内し当時の事をお話しました。ユソフ閣下の義理の息子アダナン・ブンター氏（元在日大使）も在日中、何度か来広し、記念碑にご案内しました。

一九九四年の広島アジア大会では、ブルネイの選手をはじめ東南アジア選手をサポートし、選手団の代表の何人かが、記念碑を訪れました。毎年、京都の修学院小学校は校区内にサイド・オマール氏の墓があることから、平和学習の一環として、オマールさんを訪ねる旅（修学旅行）で記念碑前にて平和集会を行っています。一九九五年八月六日、父の呼びかけでインドネシア、ブルネイ、フィリピン、マレーシア、ミャンマーから九名の元南方特別留学生在が記念碑前に集まり留学時代をしのぶ会を開き、青春時代に返ったかのように皆当時の話に花が咲き再会を喜びあっていました。

この度、興南寮跡記念碑に植樹された三名の元南方特別留學生の方が名誉博士号を授与されたことは、大変喜ばしく、今後、益々日本との友好親善に寄与される事となるでしょう。



三代目の記念碑の除幕式
花岡俊男氏夫妻（左）とハッサン・ラハヤ氏夫妻（右）



ペンギラン・ユソフ氏（左）と花岡俊男氏（右）